

男の子は強くて敏感で…

激しくて優しくて静かでなければならない

Margrét Pála Ólafsdóttir

私は、今大会において我が Hjalli 保育園に発表の機会を与えて下られたことを嬉しく思っている。また、6 年間にわたり Hjalli において発展させてきた教育方法に対し、皆様に関心を示され、こうして参加して下さったことに感謝したい。Hjalli でジェンダーによって子どもを分離することは、我々の方法の一例である。ジェンダーに基づく差別は事実であるので、この方法をこの時期に試す事は適切であると考えている。つまり、ジェンダーによる子どもたちの分離を決心する動機となった 3 つの要因が既に 1989 年にあった。

1. ジェンダーに基づいた待遇の直接的な相違

ジェンダーに基づく差別は、学校組織の中にも存在している。これまでの研究では、男子は学校や保育園が提供すべき事柄の 75～80%、つまり男子であるが故の特典として一番いい部分を得ていると指摘している。注目を集めることやスペースの確保、授業や激励といった全ての事柄に関して、それは、男子に与えられている。

このような状態が非常に長く続いているにもかかわらず、人々はこの事実を勝者としての男子に付随している利点や利益、そして敗者としてのかわいそうな女子に付随している欠点やマイナスであると解釈している。これはナンセンスである。私はそれらの両方をなくすことを要求する。しかし別の領域では私は 6 年間にわたり、両方のジェンダーが危険にさらされていることに人々が気づく時まで何もなされていないことを訴え続けている。女子たちが損をすると主張することはもはや明らかである。

男子の損失としては墮落である。我々は、男子の活力を奪い、士気をくじく。そして、その結果、実際に私たちがどういうことを引き受けなければならないのだろうか？ 私たちは女子を犠牲にして、男子に広すぎるスペースを与え、それによって、男子に存続している思いやりのなさや限度を超える行為を養う教育を提供し、男子を墮落させる。これは、私たちが男子に彼等はきわめて重要な存在ではあるが、全く手におえないということを教えるやり方である。

2. 伝統的性別役割の独占

誰もが既になじみの仕事や遊びや任務を見つけようとする。言い換えれば、何か新しいものに挑戦するより、むしろ古くからの役割を続けようとするだろう。結果として、女子は、「女子の活動」やすべて「女らしい」ものを見つけ、一方で男子は「男子の活動」や「男らしさ」を表す行動を見つける。女子は、男子が独占している任務にあえて挑戦しようとはしない。

両方のジェンダーが同じ場所に同時にいる限り、女子と男子は彼等が既に習得している役割や任務や労働における訓練を受けるだけとなるであろう。そして、これが我々の伝統的な性別役割の型を継続し強化する方法なのである。

3. 2つのジェンダーの異なった行動と反応

私は、これ以上は理由を問わない。すなわち、私にとっては、男子と女子が異なった行動と反応をするということを事実として認めるには十分であるからだ。典型的な女子は、典型的な「女らしい」問題をもっている。彼女は受け身で、気が弱く従順である。典型的な男子は、典型的な「男らしい」問題を持っている。つまり、彼は他人に対する思いやりに欠け、攻撃的で、喧嘩っ早い。彼らはハメをはずす。我々は一体全体どうやって同時に両方のジェンダーに対応するのか。

ジェンダー分離作業の3段階

両方のジェンダーに対する平等な諸条件のための Hjalldi の目標は、以下のような原則により述べることができる。

第一段階 分離し打破する

最初の段階は、保育園において単に性別により二分し、伝統的な「男子としての特典」「女子としての特典」という位置付けをすることである。これは、男子にはたとえば彼ら自身の特性や既習の行動を前提にした作業や遊びへの無数の機会を与える。すなわち、女子を犠牲にすることなしに荒々しい遊びをすることができる。これは男子にとって、**墮落を押しとどめ**、荒々しい遊びのために常に怒鳴られることなく男らしい側面を伸ばすこと、つまり、そのために、男子を追う先生を必要としない男子であることを認めることになる。

第二段階 ジェンダーを意識した計画

簡単で具体的な毎日のプログラム、行動や明白なルールの公平な学習。これらは古いステレオタイプの行動に頼ることなく、様々な状況の中で自分たち自身をコントロールす

る際に女子と男子に与えられている支援のすべてである。

典型的で伝統的な遊具は取り除く。私たちは、2歳児では、既に人形コーナーで女子を教育し始めることはほとんど必要ない。順番に、私たちは車、電車そして戦争ものの玩具を取り除いた。女子が気に入って乗る自転車も取り除いた。バスケットボールのネットや男の大きく強い世界に付随するような全てのものを取り除いた。私たちは伝統的な遊具に対抗するおもちゃを持っていない。しかし、保育園は家庭の代わりをしたり、同じものを提供したりする必要はない。自宅では、全ての男子が、タートルズやアクションマン、バスケットボール、ミニカー、はたまた神のみぞ知る何かで部屋をいっぱいにするほど、かなり十分な「男子の遊具」をもっている。

第三段階 女子と男子に対する教育理論

我々の結論は、分離と計画が不十分であったということである。最初は、女子と男子各々に対する特別な教育理論をあれこれと思索した。しかしながら、子どもたちと実践する中で、その考えは個人と社会性のトレーニングへと発展した。この結論は、子どもたち自身から得られた。

ジェンダーによる自分のイメージ。自分自身についての子どもの記述

男子がみた自分自身

強い
大きい
たくましい
速い
騒々しい

女子がみた自分自身

利口
かわいい
やさしい
人の役に立つ
物静か

我々は、子どもたちの記述を解釈できるし、彼等が我々に示しているものは、新しいものではないということを見い出すこともできる。

男子の発達しつつある点

個人意識
外向的な「男らしい」特徴
「僕の」意見
公的な領域での活動

女子の発達しつつある点

社会意識
内向的な「女らしい」特徴
「私たちの」意見
私的な領域での活動

ベルリンの壁は崩壊したが、ジェンダー間の障壁はそのまま存在している。我々は、実際にジェンダー間の障壁が意味するものをより注意深くみる必要がある。

明確な「男子」の特徴

個人的特徴

独立

たくましさ

指導

目標志向性

明確な「女子」の特徴

社会的特徴

協力

共感

世話

柔軟性

ここに、我々の持つジェンダーの問題が端的に示されている。もし、各々のジェンダーが「伝統的に期待されるジェンダー像」をただ発達させるだけなら、これらの特徴のマイナス面は、以下のような良くない結果を引き出す。

逸脱行為、暴力、思いやりの欠如、弱者の軽蔑、絶対的権力、暴虐行為、窒息、干渉、服従、自己嫌悪。

これらの否定的で破壊的な因子との闘いや克服に取り掛かることを、私は単に助成的活動と呼んでいる。とりわけ、弱くぐらついている領域における各々のジェンダーの強化支援である。全ての子どもが個性の訓練を必要とするが、女子には特別な訓練が必要となる。全ての子どもが社会的な訓練を必要とするが、男子は女子より多く訓練する必要がある。

Hjalli の目標によれば、個人訓練の最も重要な側面は、自己信頼、建設的な思考、挑戦ができるようになることである。女子の挑戦ができるようになるための訓練は、フィルムにあるように男子と同様である。

社会的な訓練

Hjalli の男子に対する助成的活動の一部分をビデオでご紹介したい。親密さや友情の観点から、男子はあえてお互いの身体に触れるようにしている。たとえば、お互いの足をさすったり、マッサージしたり、身体接触の機会をもったりするのである。彼等は少しずつ信頼や親密性を学習し、男子は益々多く、あえて自分の感情を表現したり、お互いへの気遣いをみせたりするようになる。そして、最終的には、女子がそこにはいないので、男子が自分より年下の男子を助け、責任感を発達させることもできるだろう。また、彼等はそれをととても上手にできるような人になるだろう。

我々は、友情や相互援助の基礎となる積極的な態度を訓練する。「私の親密な遊び仲間」や「楽しい友達」は、我々の日常の教育手段である。

(小林由美)